

## 環境問題も産学官連携の時代に

### 海浜美化フォーラム2007

四季がはっきりと分かれ、季節に応じた姿を見せる北の大地・北海道には国内ばかりでなく、海外からの観光客も年々増加傾向にある。しかし、自然豊かな北海道も一歩海岸線に足を踏み込めば、ペットボトルや空き缶、さらに産業廃棄物など様々なゴミが散乱している。NPO法人・北海道海浜美化を進める会（札幌市、水崎呈会長）は毎年、海浜の美化清掃活動を行っているが、このほど「海浜美化フォーラム2007」を札幌市内で開催。北海道を取り巻く環境問題や市民のとるべき態度などについて話し合った。

「私たちは海浜の美化清掃活動を行っています。海の環境保全是そこだけで解決する問題ではありません。川、森の環境と密接に結びついて一つの生態系を作っています。ですから、今日は海だけでなく、川と森さらには北海道、日本そして地球レベルでの環境問題について勉強しましょう」——こう語るのは北海道海浜美化を進める会の水崎呈会長。

2月25日に札幌市内で開かれた「海浜美化フォーラム2007」での挨拶で、グローバルな視点を持って環境問題に取り組むことの大切さを主張した。

同会では毎年、この時期に「海浜美化フォーラム」を開催しており今回で5回目。第1部では札幌学院大学の奥谷浩一教授が「地球環境問題と人間の倫理的問題」と題して基調講演を行い、現在の地球を取り巻く環境について、「オゾン層の破壊、森林伐採、大気汚染と酸性雨、環境ホルモンに代表される有害物質の広がり、地球温暖化



### 地球規模の視点を

の進行などそれぞれが互いに絡み合っていて自然の生態系を破壊している。現在の状況が進めば、2050年には陸上生物の50%が絶滅するという報告もある」と危機的状況にあることを強調、その上で「こうした環境問題に対処するには3つの方法しかない。すなわち、法的規制、政策誘導、モラルの強化だが、この中で今後、モラルの強化を促すために環境教育が必要だ」と述べ、幼い時からの自然に親しみ、自然の不思議と生命の尊さに対する感性を育てる環境教育の重要性を説いた。

第2部では、環境問題に取り組む団体の代表者が4人登場してパネルディスカッションを行った。

この中で個々人のモラルを強化する方策として、札幌エルプラザ施設館長で札幌市定山溪自然の村村長を務めたこともある大築寛さんは、「自然の村ではクマが出没します。人間が捨てたお菓子や生ゴミなどの味を覚えて、里の近くに下りてきます。ですからゴミを捨てないでくださいという、命と生活に結びつきますので皆さんほとんどゴミを持ち帰ります。ゴミを出すことは生活と命にかかわる問題だということをお話を大にして語り、それを前提に政策に取り組むべきだと思います」と語る。



また、自然公園財団支笏湖支部の山崎通則支部長は、「ゴミの問題は海岸に打ち上げられた流木や漁具などに見られるように市民だけでは限界がある。ゴミを一つの資源と見れば、企業と自治体、そしてボランティア団体というように、産学官の連携が今後必要だ」と指摘する。

「海浜美化フォーラム」は、海岸美化清掃ができない冬場に教育的見地からフォーラムを開催している。特に今回は北海道海浜美化を進める会がNPO法人の認可を受けて初めてのフォーラムで、環境問題に関心のある学生や一般人、企業関係者などが約七十人参加。今後の活動について水崎会長は、「私どもの団体は、子どもからお年寄りまで幅広く参加しています。また、札幌近郊の海岸から遠くは稚内の海岸まで出かけます。そういう意味では、今後も世代間の交流、地方と都市の交流を深めて生きたい」と汗顔の環境保全に意欲を燃やす。



講演する奥谷浩一 札幌学院大学教授